

「サイバーセキュリティ官民合同キャンペーン in 大宮」に参加

～埼玉県警・埼玉県・さいたま市とともに「サポート詐欺」への注意を呼び掛け～

日本損害保険協会 関東支部 埼玉損保会（会長：新井 良裕・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社理事埼玉支店長）では、急増するサイバー攻撃の防止を目的として、2月29日（木）にJR大宮駅構内で実施された「サイバーセキュリティ官民合同キャンペーン in 大宮」に参加しました。

このイベントは、最近急増しているサポート詐欺*やランサムウェア等のいわゆる「サイバー攻撃」の被害防止を目的として埼玉県警が主催し、埼玉県・さいたま市の行政機関、埼玉県警と「サイバーセキュリティー対策に関する相互協力協定」を締結している損害保険会社7社、学生ボランティアが参加して、官民合同で取り組みを行ったものです。*インターネット閲覧中、突然「ウィルスに感染した」等と偽の警告画面を表示させ、問題を解決するために遠隔操作ソフトのダウンロードやサポート契約の名目で料金をだまし取ろうとする詐欺の手口

キャンペーン当日は、はじめに、埼玉県警生活安全部サイバー局サイバー対策課の友則課長と協定締結保険会社を代表して、あいおいニッセイ同和損保 さいたま第二支社の田村支社長が挨拶を行い、田村支社長からは、「官民が一致団結して、埼玉県のサイバー犯罪を撲滅したい！」との力強いメッセージが述べられました。

続いて、サポート詐欺の実際の手口をパソコンの画像を上映しながら紹介し、埼玉県警同課の小野警部補から、「サポート詐欺の警告画面が出て感染している訳ではないことから、決して慌てずに対処し、画面表示の電話番号には絶対に電話しないように気を付けてほしい。」旨が伝えられました。

その後、啓発活動として、参加者全員で、啓発チラシやノベルティのセット400部を駅構内の通行人に配布しながら、「サイバー攻撃が増えているので注意してほしい」ことや「サポート詐欺の画面が出て慌てずに対処しましょう」といったことを呼び掛けました。

当支部では、今後も警察や行政と連携して、サイバー犯罪の防止に向けた取り組みを鋭意行って参ります。

あいおいニッセイ同和損保 田村支社長の挨拶



サポート詐欺の手口紹介



駅頭啓発活動の様子



参加者全員での記念撮影

